

令和5年度スポーツ庁委託事業
誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業
(学校体育施設の有効活用推進事業)

報告書

子ども達のボール遊び環境の創出による
学校の新たなモデルの構築

令和6年2月

スポーツ庁

(委託先：株式会社博報堂D Yスポーツマーケティング)

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として株式会社博報堂DYスポーツマーケティングが実施した、「令和5年度 誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業（学校体育施設の有効活用推進事業）」の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

目次

第1章 事業の趣旨	1
1. 現状および課題の整理	1
(1) 学校体育施設開放実施における課題	1
(2) 地域社会における学校の課題 —流通経済大学および附属柏中高を例に	2
2. 事業の目的および期待される効果	3
(1) 事業の目的	3
(2) 期待される成果	3
第2章 事業内容	5
1. 流通経済大学附属柏中学校・高等学校開放イベント「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」	5
(1) 新たな遊びプログラム開発	5
(2) 実証実施までの流れ	7
(3) 実証当日の運営	12
(4) 実証の記録	17
2. 持続性につながるプロモーション展開	20
(1) PRの全体設計	20
(2) 各フェーズの記事配信	21
(3) 開発プログラムのハウトゥー動画制作	25
第3章 検証結果	26
1. 「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」アンケート	26
(1) 参加者アンケート結果および考察	27
(2) 保護者アンケート結果および考察	28
2. 各配信コンテンツのインサイト	35
第4章 総括	37
1. 今年度の成果について	37
2. 今後について	38
参考文献	39

第1章 事業の趣旨

本章では、株式会社博報堂DYスポーツマーケティング（以下「当社」とする）が、本事業を企画立案するにあたっての社会的背景、および本事業を実施することにより達成する目的について述べる。

1. 現状および課題の整理

まず社会的背景として、スポーツ庁が実施している統計調査から、子どもたちのボール遊び場候補として考えられる学校体育施設の開放状況を整理し、現状の施設開放における課題について述べる。

昨今、日本国内においては特に首都圏付近において、街中や公園等でボール遊びが禁止、もしくは制限されるなどされている地域が増加しており、子どもたちが気軽に外でボール遊びができる機会が減少している。この状況を受けて、スポーツ庁では、子どもたちがボール遊びができる場所の受け皿として、日本国内のスポーツ施設のうち57.7%を占める学校体育施設に着目している(図1 令和3年度体育・スポーツ施設現況調査報告より抜粋)。実際、令和2年度時点では、全国の公立小中学校において86.0%の学校が、体育施設を一般向けに開放している(表1 令和3年度体育・スポーツ施設現況調査報告より抜粋)。しかし、学校の開放には次項のような課題があり、子どもたちが気軽にボール遊びができる場としての汎用性や持続可能性には欠けると言える。

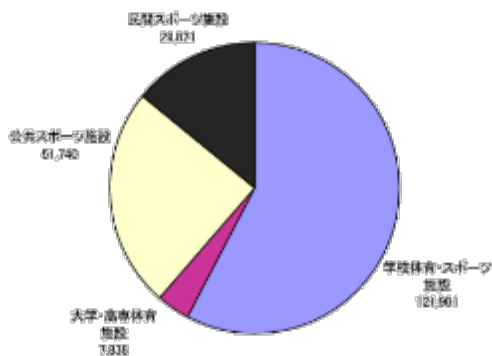


図1 日本国内の体育・スポーツ施設設置数

表1 公立学校体育施設開放状況推移

調査年度	市区町村数	開放	開放割合	未開放	未開放割合	市区町村数	未開放割合
		市区町村数	(%)		(%)		(%)
令和2年度	1,739	1,443	83.0	296	17.0	170	0.8
令和3年度	1,741	1,503	86.3	238	13.7	119	0.7
令和4年度	1,741	1,520	87.3	221	12.7	114	0.7
令和5年度	1,883	1,520	80.2	363	19.1	-	-
令和6年度	1,998	1,723	86.2	275	13.8	-	-
令和7年度	2,041	2,033	99.6	8	0.4	-	-
令和8年度	2,055	2,032	98.9	23	1.1	7	0.3
令和9年度	2,060	2,104	102.1	56	2.7	13	0.6
令和10年度	2,070	2,053	99.2	17	0.8	10	0.5
令和11年度	2,070	2,113	102.0	57	2.7	6	0.3

※令和23年度以内の数字は調査市区町村における調査市区町村数・開放率、未開放市区町村数・未開放率を表す
 ※「開放率」は、開放した市区町村数・割合を算出したものである

(1) 学校体育施設開放実施における課題

まず運営側からみた課題として、運営上利用者との調整手続きや施設の鍵の管理などが発生するが、多くの場合は、開放学校や教育委員会、運営委員会の職員がその管理に関する負担を担わなければならない。しかし実際には、学校体育施設の開放が通常業務や事業の一環として捉えられるケースは少ない。地方公共団体が管轄しているため、外部委託をして運営することも難しく、人員や財源を十分に充てられていない現状が見受けられる。今後持続的に子どもたちの遊び場として機能させていくためには、地方公共団体の中で業務・事業として学校体育施設開放を明確化し、運営にあたる人員の確保や、予算財源の確保に取り組んでいく必要がある。

また、利用者側からみた課題としては、学校体育施設開放を行っている公立学校の多くは、団体のみに向けた開放しか行われていない点がある。令和3年度体育・スポーツ施設現況調査報告によると、76.7%の学校が団体のみに対して開放を実施している。身近にボール遊びができる環境がなく、整った設備がある開放された学校施設を利用したいと考えても、個人では気軽に利用すること

は難しい現状がある。

以上のように、公立学校は既にその大半が学校体育施設開放を行っているにもかかわらず、持続性のある運営スキームが構築できていないため、地域に住む「個人」がその恩恵を受けにくい現状がある。

そのため、学校体育施設を活用して地域の子どもたち個人単位にボール遊びができる機会を提供するにはどうすればよいか。先ほど運営側の課題でも述べたが、運営主体における学校体育施設開放のメリットを明示化し、業務・事業として人材・財源を確保する仕組みを醸成することが根本的な解決になるのではないだろうかと考えられる。次項で、当社が以前より取組をサポートしてきた流通経済大学および付属中高を例に考え、地域に開かれた学校づくりという観点で、学校が地域の子どもたち個人にボール遊びができる場を提供する解決策を導きたいと考える。

（２）地域社会における学校の課題 —流通経済大学および付属柏中高を例に

流通経済大学は、千葉県松戸市、茨城県龍ヶ崎市にキャンパスを構える大学であり、傘下に流通経済大学付属柏高校と、2023年に新設された流通経済大学付属柏中学校を持つ。学園全体でラグビーやサッカーなど、スポーツが盛んな学校でありつつ、近年はキャンパスを構える地域との交流を盛んに行い、学校を中心とした垣根のない空間を地域住民に対して創出していくことを推進している。流通経済大学・龍崎孝副学長はこの考え方を「コモンズ」として説いており、学校を特定の個人や団体が所有するのではなく、誰もが共有して利用できるような公共性の高い「共助」の空間として、地域になくってはならない存在となることを目指している。その具体的な現状の取り組みとして、アートやスポーツを通して、学生および学校関係者と地域住民が交流できる様々なイベントを展開しており、実際に地域住民からの反響もよく、年々イベントの規模や参加者も増加している。

流通経済大学および付属中高がこの取組を始めるに至った課題背景として、今後の日本の少子化、それに伴う大学進学者数の低下がある。龍崎副学長によると、2017年に63万人というピークを迎えた大学進学者数は、2039年、2040年には約51万人にまで減少すると見込まれ、地域の私立大学にとっては、近隣に居住している潜在的な入学志望者が広範な地域の入学者を受け入れる実績のある著名で人気な学校へ「流出」してしまうことが、学園存続の痛手となってしまい、としており、その地域における需要を自ら呼び込む努力、地域における学園独自の存在理由を自ら構築していく必要がある、と述べている。こういった課題感の中で、流通経済大学は先述の「コモンズ」という考え方を基盤に、まずは学校として地域の皆さんも使うことができるんだという姿勢を示し、ただ子どもたちが通うだけの学校ではなく、「地域の一員」として溶け込んでいき、学校と地域社会がお互いに必要な存在になることを目指している。このような課題は、流通経済大学および付属中高に限った話ではなく、少子化社会・格差社会に置かれた様々な学校に当てはまるものであり、学校が設置されている地域社会との連携をどのように取り結ぶかが、今後の学校づくりの重要なカギになると考えられる。

以上を踏まえると、学校体育施設開放実施自体の課題としては、「①持続的スキームの構築」「②個人単位での施設利用」、開放主体の学校側の課題としては「地域とのつながり強化」があると考えられる。これらを解決するソリューションとして、当社は「人員や資金、設備などリソースは整っているが、地域とのつながりを深化させていく必要がある課題をもつ学校」と「学校体育施設開

放のメリットを見出せず、持続可能な運営スキームを構築しきれていない課題をもつ学校」をかけ合わせ、地域住民向けに開放し、子どもたち個人が気軽にボール遊びをできる場を創出する、ひいては、地域に開かれた学校づくりの実現といった新たな学校体育施設開放モデルを構築することを試みる。次節で、本事業の目的と目的達成のための取組、および期待される成果について述べる。

2. 事業の目的および期待される効果

本事業は以下の目的のもとに構築し、期待される成果にどれぐらい沿った結果が得られるかによって、事業自体の評価を行う。

(1) 事業の目的

本事業の第一の目的は、前項でも述べたように、地域に開かれた学校づくりの一環として、地域住民向けに開放し、子どもたち個人が気軽にボール遊びをできる場を創出する、といった学校体育施設開放の新たなモデルを構築することである。このために、流通経済大学附属柏中学校・高等学校が所在する柏市およびその周辺の地域の子どもの向けに学校体育施設を開放する取組を、学校側と連携して実施し、地域に対しての学校体育施設の開放の意義を検証する。

また第二の目的は、これまでは団体向けの開放が多く、個人単位での施設利用が難しかった課題に対し、個人の子どもの向けに施設を開放し、地域の子どもが誰でも気軽に来場できる仕組みをつくることである。このために、まず先述した取組内容として、球技経験や学年にあまり依存せず、どんな子どもも気軽に楽しめるボール遊びプログラムを独自で開発する。またこのプログラムを実施するスペースも設けながら、来場者に自由に遊んでいただけるフリースペースも設け、学校内の体育施設を自由に楽しんでいただける場を用意する。

そして第三の目的として、持続可能な仕組みづくりがある。1節(1)でも述べたが、継続的な学校体育施設の開放が現状の課題としてあるため、本事業では、他の自治体や学校が実施するためのモデルケースとなれるよう、本事業の目的、具体的取組、成果をまとめて、関係者のアクセスが見込まれる媒体よりPR発信し、波及を狙う。

(2) 期待される成果

本事業実施によって期待される成果を、ステークホルダーごとに整理する。

① 個人

- ・ボール遊びをするための設備が整っており、安全に様々なボール遊びができる
- ・普段の学校教育や遊びにはない、新たなボール遊びプログラムを体験できる
- ・団体に所属する必要なく、個人で施設を利用できるうえ、通常の学校開放よりも施設を利用するための登録作業や手続きなどが簡潔にできる

② 行政

- ・地域の子どもたちの運動実施率やボール遊び実施機会が増加する
- ・当社が事務局的功能を果たすことにより、運営側の行政や学校の管理や費用の面の負担が減る
- ・従来には少なかった「個人（地域）に対しての新たな受け皿」を作り出すことができる
- ・同様のモデルで体育施設を開放する学校が増え、結果的に他地域のボール遊び実施機会が増える

③ 学校

- ・地域に開かれた学校というイメージを地域住民に対して獲得できる
- ・少子高齢化の中、学生を確保するための学校認知拡大ができる
- ・地域社会と学校のタッチポイントが増える
- ・学校の地域に向けた「ブランディング」価値を作り出す可能性がある

また上記の成果は、以下のような検証方法および指標によってその効果を測定し、評価する(表2)。

表2 効果検証方法

	検証方法	指標
定性的な効果	<ul style="list-style-type: none">・参加者アンケート・学校関係者へのヒアリング・行政へのヒアリング	<ul style="list-style-type: none">・学校開放活動への興味関心向上・ボール遊びへの興味関心向上・学校への愛着度向上
定量的な効果	<ul style="list-style-type: none">・実証の取組への参加者数・見学者数・出稿メディアのPV数、リーチ数、エンゲージメント	<ul style="list-style-type: none">・「地域に開かれた学校づくりで学校/行政/個人(地域)の課題を解決する考え方」の認知度向上・学校地域の子どもの運動実施率の変動率

第2章 事業内容

1. 流通経済大学付属柏中学校・高等学校開放イベント「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」

本節では、前章で述べた、流通経済大学および流通経済大学付属柏中学校・高等学校と連携した学校体育施設開放取組について記載する。

(1) 新たな遊びプログラム開発

前章でも述べた通り、本取組は地域に開かれた学校づくりの一環として実施する学校体育施設の開放に係る取組であり、個人単位で広い年代の地域の子どもたちが来場して遊べる機会を提供することを趣旨としている。

そのため、どのような子どもでも気軽に親しみを感じて足を運んでいただける仕組みをつくる必要がある。そこで当社は流通経済大学と連携して、球技経験や学年にあまり依存せず、どんな子どもも気軽に楽しめるボール遊びプログラムを独自で開発することにした。

ボールを使った遊びといえば、野球、サッカー、バスケットボールなど様々にあるが、子どもたちが最もよく行っている遊びとしては、誰もが幼い頃から馴染みのある鬼ごっこが挙げられ、笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021年の調査によると、4歳～11歳の過去1年間に「よく行った」運動・スポーツにおいて、2017年の調査から継続して鬼ごっこが実施率1位となっている(表3)。この結果は、鬼ごっこは子どもたちにとって、単純なルールで年齢や運動能力に関わらず、楽しんで遊べる遊びであることに起因していると考えられる。

表3 4～11歳のスポーツライフに関する調査(笹川スポーツ財団2021年調べ)

2017年 (n=1,542)				2019年 (n=1,491)				2021年 (n=1,449)			
順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)
1	おにごっこ	47.3	1	おにごっこ	52.6	1	おにごっこ	57.3			
2	水泳(スイミング)	34.2	2	水泳(スイミング)	34.1	2	自転車あそび	30.3			
3	自転車あそび	30.4	3	ドッジボール	29.0	3	なわとび(長なわとびを含む)	30.2			
	ドッジボール	30.4	4	自転車あそび	27.6	4	ドッジボール	29.2			
5	ぶらんこ	25.4	5	サッカー	25.0	5	水泳(スイミング)	27.3			
6	リッパ	24.3	6	ぶらんこ	23.7	6	ぶらんこ	26.8			
7	なわとび(長なわとびを含む)	22.2	7	なわとび(長なわとびを含む)	24.4	7	サッカー	22.5			
8	かくれんぼ	16.6	8	かけっこ	17.9	8	鉄棒	21.3			
9	鉄棒	16.2	9	かくれんぼ	17.2		かくれんぼ	19.8			
10	かけっこ	13.7	10	鉄棒	17.0	10	かけっこ	17.1			

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021 (p.70【表1-6】)

この点を活用し、野球、サッカー、バスケットボールなど既定のボール競技の枠組みに縛られず、まずはボールを使いながら思いっきり体を動かすのを誰にでも楽しんでもらえるよう、鬼ごっこにボール遊びの要素を加えた「おにごっこ×ボール遊び」という新しい遊びプログラムを開発することにした。開発には、流通経済大学大学院スポーツ健康科学研究科准教授であり、日本バスケットボール学会にも所属している小谷究氏に協力を仰いだ。小谷氏はバスケットボールに精通している研究者でありながら、遊びながら自然と技術が身につく、スポーツの本質には遊びの要素がある、という考え方を重視しており、本プログラム開発にあたっては、「このプログラムはバスケのみならず、様々な

球技に転用できて、それでいて簡単、ボールと場所さえあれば全国の子供たちが簡単に楽しくできるプログラムにしていく必要がある」と述べている。

プログラム開発は、『バスケットボールを楽しく学ぶ ファンドリル』（小谷、加賀屋 2019）を参考に行い、以下4つのプログラムを開発した。

1. ハンドリング鬼ごっこ

- ・ペアで一方が逃げる人、一方が鬼になり、1mの距離で向かい合って立つ
- ・規定のハンドリングを終えたら逃げたり、追いかけたりすることができる
 - 1) ボディーサークル（腹）：5往復
 - 2) ボディーサークル（頭）：5往復
 - 3) ボディーサークル（膝）：5往復
 - 4) フィギュアエイト：3往復（ボールを前後から挟んで構えて6回ボールにタッチ）



2. パス追いかけ鬼ごっこ（15秒）

※事前にコーンマーカーなどでエリアを作っておく

- ・4人組になり1人が逃げる人、3人が鬼になる
- ・ボールを持っている鬼だけが逃げていない人にタッチすることができる
- ・鬼の3人はパスをしながら逃げていない人を追いかける
- ・30秒間で何回タッチできるかに挑戦する
- ・ボールを持って走ることとドリブルはできない



3. ボール氷鬼（1分）

- ・鬼が5人で残りが逃げる人
- ・逃げる人は1人1つボールを持って逃げる
- ・鬼にタッチされた人はボールを頭の上で持ち足の間を開けて立つ
- ・タッチされていない人がボールを凍っている人の足の間に通せば解凍される

- ・全員を凍らせれば鬼チームの勝ち

※鬼を交代しながら3回行い、1回目はスキップ 2回目はサイドステップ 3回目はランで実施



4. ゴール下チェイサーシューティング（グラウンドの場合はサッカー、体育館の場合はバスケット）

- ・4人組になり、バスケットゴールの前で1列に並ぶ
- ・先頭からフリースローを打ち、前の人投げたら、次の人が投げるを繰り返す。
- ・チームで合計10本決めたら合図をする
- ・一つのチームから合図があったら全チームフリースローを中断し、次のゴールにローテーションする
- ・次のゴールに到着次第、再び先頭の人から同様にフリースローを打つ
- ・ゴールのローテーションが1周するまでにより多く10本のフリースローを決められたチームが勝ち



各プログラムには、ボールを手で扱う感覚や空間把握能力といった基本的なスキルから、相手に正確なパスを出したり、相手の動きを予測する、相手の動きに合わせる、パスする位置を瞬時に判断する、正確なコースでシュートを打つなど、高度なスキルを養える要素が含まれている。

これらのプログラムを取り入れながら、実際には次項のように実施までの段取りおよび当日のイベントを組み立てた。

（2）実証実施までの流れ

開催概要は、流通経済大学付属柏中学・高等学校と連携しながら、次頁に定めた。実施日は、学校の授業と被らない休日に、時間は午前・午後で1回ずつ、公共交通機関（バス）で来場しやすいように、バスの時刻表に合わせて開始時間を設定した。①ボール遊びとおにごっこを組み合わせた遊びプ

プログラムの定員は、プログラム実施に協力いただく小谷氏および小谷氏ゼミ生の人数との兼ね合いで設定した。

■開催概要

名 称：思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！

日 時：2023年12月9日（土）

①ボール遊びとおにごっこを組み合わせた遊びプログラム（前項で述べた4プログラム）

午前の部 11:00～（受付開始 10:30～）

午後の部 14:00～（受付開始 13:30～）

②ボール遊び場提供（開放時間 11:00～15:30）

会 場：流通経済大学附属柏高等学校 ラグビーグラウンド・体育館 ※雨天時は体育館のみ使用

参加対象：小学校6年生以下のお子様ならどなたでも（保護者同伴可）

①は小学3年生～6年生向け ※小学1, 2年生で参加希望者は事務局に要相談

②は上記未満のご年齢の子ども向け

（①の参加者もプログラム終了次第、②で遊ぶことも可）

実施内容：ボール遊び体験プログラム ※午前/午後 各定員80名（定員を超えた場合、抽選）

グラウンド・・・50名程度

体育館・・・・・・30名程度

施設開放 ボール遊び場提供

特段のプログラム実施はなし、自由参加可能

■事前の周知・案内

流通経済大学附属柏中高が所在する柏市の教育委員会を通して、つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅近隣の小学校を中心に、イベント告知チラシを計7校に配布した（図2、図3）。

具体的には在学児童に直接配布したり、保護者の連絡網でチラシデータを配信したりして告知を行った。告知実績は表4の通りである。イベントの約3週間前である2023年11月16日～配布し、①ボール遊びとおにごっこを組み合わせた遊びプログラムに対して、定員80名として2週間の募集期間を設け、2023年11月30日に申込み締切りとした。チラシのQRコードからウェブ上の申込フォームにアクセスできるようにし、「参加者氏名」「学年」「保護者氏名」「連絡先」「メールアドレス」「参加希望時間（午前/午後）」「参加希望場所（グラウンド/体育館）」の情報を入力させ、個人情報取扱いへの注意事項にご同意いただいた上で、申込みができる形式にし、申込者情報を集約した。また情報の管理・集約は当社にて「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！事務局」という事務局を用意し、第三者に個人情報が漏れないよう、厳重に行った。

※締切り直前まで、上限に申し込み人数が達していなかったため、追加で11月27日にも配布を実施した。

なお、②ボール遊び場提供に関しては、特にプログラムを設けない公園のようなフリースペースの為、事前募集は行わず、当日受付とした。



図2 「思いっきりチャレンジ!おにごっこ×ボールあそび!」告知チラシ配布小学校



11/16 配布分

11/27 配布分

図3 「思いっきりチャレンジ!おにごっこ×ボールあそび!」告知チラシデザイン

表4 小学校別告知チラシ配布枚数内訳

学校名	必要数	11月16日～配布分	11月27日～配布分	配布総数
田中小	772	800	800	1600
西原小	611	700	700	1400
松葉第一小	718	800	800	1600
花野井小	278	300	0 ※保護者にメール配信	300
松葉第二小	580	600	0 ※保護者にメール配信	600
十余二小	540	600	0 ※保護者にメール配信	600
柏の葉小	1,264	1300	30	1330
予備		500	170	670
合計		5,600	2500	8100

募集の結果、53組71名からの申込があり、定員80名に迫る応募を獲得することができ、申込者を表5のように振り分けて、収集したメールアドレス宛に当選通知を送付した。なお、当選通知には、図4のようにイベント詳細情報に加え、「アクセス」「服装について」「持ち物」「当日の緊急連絡先」「傷害保険」など、イベント参加における諸注意事項も掲載した。

表5 申込参加者当選プログラム振り分け

	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	小計	合計
【午前の部】							
グラウンド		16	3	2	1	22	
体育館		10	4	1	3	18	40
【午後の部】							
グラウンド	1	8	8	1	1	19	
体育館		6	2	4	0	12	31

思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！へご応募された皆様

【午前の部・体育館でのプログラム】にご当選されましたのでお知らせいたします。

この度は、『思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！』にご応募いただきまして、ありがとうございます。

なお、午前の部、午後の部のグラウンド・体育館ともに空き枠がございますので、是非ご家族やご友人にお声がけいただければと存じます。
(要申込： <https://form.run/@omochare-entryform>)

また、未就学児や小学1、2年生でもおにごっこ×ボールあそびプログラムに参加希望のある方がいらっしゃれば、事務局にご相談ください。

下記にて、イベントの詳細と当日の注意事項をお送りいたします。

●日時：2023年12月9日（土）
①ボール遊びとおにごっこを組み合わせた遊びプログラム（小学3～6年生）
午前の部＜体育館＞ 11:00～12:00終了予定（受付開始 10:30～）
②ボール遊び場提供＜グラウンド・体育館＞（開放時間11:00～15:30）（小学生以下なら誰でも）

●会場：流通経済大学付属柏高等学校（〒277-0872 千葉県柏市十倉二1-20）

●実施内容：おにごっこ×ボール遊びを組み合わせた新たな遊びプログラム体験（上記①）、および施設を開放したボール遊び場提供（上記②）
※②は未就学児～小学生であれば自由に立ち入り可能で、①の参加者もプログラム終了次第、②で遊んでいただくことも可能です。
※参加者は、必ず保護者同伴でご参加いただくようお願いいたします。
※プログラム終了後、アンケート調査にご協力をお願い致します。

●アクセス：<https://www.ryukei.ed.jp/access/>
※会場には駐車場がございませんので、公共交通機関、もしくは自転車でお越しください。
当日は臨時スクールバスを運行しておりませんので、予めご了承ください。

●服装について：参加されるお子さまは、運動ができる服装と運動靴でお越しください。
※会場には更衣室はございませんので、あらかじめ着替えてからお越しいただくようお願いします。
※プログラム内で汚れる可能性もございますので、汚れても良い服装でお越しください。
※参加中はイベント用リストバンドを着用いただきますので、予めご了承ください。
※当日、保護者同伴でもプログラムに参加可能ですが、ヒールや革靴でのグラウンドの立ち入りはお控えください。

●持ち物：参加誓約書・飲料・室内用シューズ
※会場にお荷物置き場はございますが、共用スペースとなりますので、なるべく大きなお荷物はご遠慮いただくようお願いします。
※会場内での食事はご遠慮ください。

●当日の緊急連絡先：070-3984-6460
（『思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！』統括 ㈱博報堂D Yスポーツマーケティング 朝本）

【その他注意事項】
※本イベントのご参加にあたって、添付にてお送りする「参加誓約書」のご提出をお願いいたします。
内容をご確認いただき、ご本人署名欄・保護者署名欄にご署名の上、当日に会場への持参・ご提出をお願いいたします。
※ご辞退されます場合は、当日までに以下までご連絡ください。
「事務局メールアドレス」
※雨天の場合も決行いたしますが、万が一荒天等で中止となる場合は、12月9日(土)8:00までに、ご応募時にいただいたメールアドレス宛にご連絡致します。
※本イベントでは、体験参加者を対象に傷害保険に一括加入いたします。（保険料は主催側で負担）

①死亡・後遺障害保険金額：300万円
②入院保険金日額：3,000円
③通院保険金日額：2,000円
なお、本イベントが原因で怪我等が発覚した場合は、事務局（下記）までご連絡をお願いいたします。

ご不明な点等ございましたら、下記事務局までご連絡ください。
皆さまのご参加をお待ちしております。

【問い合わせ窓口】
『思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！』運営事務局
メールアドレス：「事務局メールアドレス」
個人情報保護管理者 ○○

図4 参加者当選通知メール文

また、当選通知メールには図5のような参加誓約書も添付し、免責事項やメディア取材への同意に関する「参加誓約書」を添付し、本人および保護者の署名の上、当日持参するよう案内した。持参を忘れた参加者に関しては、当日受付時に署名いただくようにした。



(3) 実証当日の運営

実証の実施にあたっては、「運営マニュアル」を事前に作成し、開催概要、会場情報、運営体制、タイムスケジュール、会場使用計画、プログラム進行表、人員配置、受付オペレーション、会場警備計画、緊急時対応、備品リストなどの項目に分けて、運営スタッフ全員が運営に必要な情報を参照できるように、情報を集約してマニュアル化した。前項までに記していない項目について、以下より対応内容について紹介する。

■運営体制

運営は図 6、表 5 のように、主催を当社とし、流通経済大学付属柏中学校・高等学校の職員や、プログラム開発にご協力いただいた小谷氏とそのゼミ生らに協力いただきながら実施した。また、イベントとして一括で傷害保険に主催側で加入しているが、緊急のけがや事故等に備え、学校側の保健教員にも控えておいていた。



図 6 イベント運営体制図

表 5 イベント運営役割分担

エリア	役割	担当部署	職位	氏名	備考
会場	受付管理	イベント会社管理	マネージャー	野村	
	受付オペレーション	イベント会社管理	スタッフ	佐藤 友希	
	会場警備	流通経済大学	警備員	佐藤 友希	
	会場警備	流通経済大学	警備員	佐藤 友希	
プログラム	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
	プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典	
プログラム進行	流通経済大学	教員	小谷 正典		

■タイムスケジュール (図 7)

前日は、学校側の部活動などのスケジュールと事前に調整し、15:30～備品搬入やテント設営、控室準備を実施した。また当日は、プログラム開始前に進行が滞らないよう、運営スタッフ内で進行のリハーサルを行った。受付はプログラム開始前 30 分間にて実施 (詳細は後の項目参照)、午前・午後ともに 1 時間のおにごっこ×ボール遊びのプログラムを実施し、それ以外の時間はフリーエリアとして、

ボール遊び場の提供を行った。

日時	全体	開演前			開演時				備考
		グラウンド	第1体育館	第2体育館	中ホール(多目的ホール)	中ホール(多目的ホール)	第1体育館	第2体育館	
12月8日(土) 開演									
15:00						●45分休憩		●45分休憩	
15:00									
15:20	前編 15:20-16:00	クイズ大会、クイズ大会 大賞入賞者	競艇抽選、競艇抽選 大賞入賞者	競艇抽選、競艇抽選 大賞入賞者	イベント期間	イベント期間	イベント期間	イベント期間	
16:00									
12月9日(土) 閉幕									
9:00	●30分休憩					●30分休憩		●30分休憩	
9:00	開演 前編 09:00-10:00					●30分休憩		●30分休憩	●30分休憩
10:00									
10:30	午編 10:30-11:00								
11:00	●30分休憩								
11:00	午編 11:00-12:00								
12:00									
13:00	●30分休憩								
13:00	午編 13:30-14:00								
14:00									
14:00	午編 14:00-15:00								
15:00									
15:30	●30分休憩								
15:30	午編 15:30-17:00								
17:00									

図7 イベント全体タイムスケジュール

■会場使用計画

プログラム実施エリア、来場者受付、保護者テント、駐輪場、スタッフ控室、メディア控室、関係者控室について記した。流通経済大学付属柏校は立地の都合上、公共交通機関ではバスしか利便性の高いアクセス方法がなかったため、自転車での来場も可とし、駐輪場を設けた。受付は、来場者が分かりやすいよう、校門を入れてすぐ、屋根のある位置に設置した。



図8 会場使用計画

■プログラム進行表

おにごっこ×ボールあそびの1時間のプログラムの、全体の流れを記した。開発した4プログラム実施のほかに、開会・閉会挨拶や、メディアPR用に記念撮影も取り入れた（PRについては次節を参照）。当日は参加子ども人数や運動能力に合わせて、適宜実施時間や実施内容を変更した。

表6 おにごっこ×ボールあそびプログラム進行表

TIME	LAP	担当	音楽	備考
11:00 (14:00)	05'	開会挨拶/記念撮影 ※グラウンド →準備運動 開会挨拶 流通経済大学付属柏崎高等学校 校長 藤田校長 記念撮影 準備運動:学生MC	司会者マイク	記念撮影・準備運動はグラウンドのみ
11:05 (14:05)	13'	プログラム①【ハンドリング鬼ごっこ】 ①-1 ルール説明とチーム決め ①-2 ボディーサークルのレクチャーと練習 ①-3 1回目:ボディーサークル(順):5往復 ①-4 2回目:ボディーサークル(順):5往復 ①-5 3回目:ボディーサークル(逆):5往復 ①-6 4回目:フィニッシュ:3往復 ※状況により、順番が入れ替わることがあります(当日のプログラム参照)	司会者マイク	●2人1組で実施 ※同じく5人1組の順番でチーム組み
11:18 (14:18)	12'	プログラム②【パス追いかけ鬼ごっこ】 ②-1 ルール説明とチーム決め ②-2 準備～1回目(15秒間) ②-3 準備～2回目(15秒間) ②-4 準備～3回目(15秒間) ②-5 準備～4回目(15秒間)	司会者マイク	●4人1組で実施 ※同じく5人1組の順番でチーム組み
11:30 (14:30)	14'	プログラム③【ボール氷巻】 ③-1 ルール説明と準備 ③-2 準備～1回目(スキップ)(1分間) ③-3 準備～2回目(サイドステップ)(1分間) ③-4 準備～3回目(ラン)(1分間)	司会者マイク	※状況により、順番が入れ替わることがあります(当日のプログラム参照)
11:44 (14:44)	15'	プログラム④【ゴール下チェイサーシューティング】 ④-1 ルール説明とチーム決め ④-2 準備～1回目 ④-3 準備～2回目	司会者マイク	※チーム人数が参加人数により調整 ※同じく5人1組の順番でチーム組み ※状況により、順番が入れ替わることがあります(当日のプログラム参照)
11:59 (14:59)	05'	開会挨拶/記念撮影 ※体育館 開会挨拶 流通経済大学付属柏崎高等学校 校長 藤田校長 記念撮影～解散。ボール遊びの開始の趣意。	司会者マイク	

■人員配置

来場者の案内、プログラム進行管理、安全管理といった観点で、以下のようにスタッフを配置した。ボール遊び場提供は常時開放しているため、受付には常時スタッフが立っているようにした。またボール遊び場にも定期的にスタッフが安全管理のために見回るようにした。



図9 会場人員配置図

■受付オペレーション

おにごっこ×ボールあそびプログラムの受付について、午前の部は 10:30～、午後の部は 13:30～受付を実施し、事前に応募いただいた参加者に対しては、応募者リストとの照合のため、氏名、年齢、学年を確認した後、参加プログラム・注意事項について説明、事前に送付した参加同意書(署名入り)

を回収し、リストバンドを参加する子どもに、保護者 PASS を保護者に着用していただいた。この識別は、本実証の来場者とそれ以外の目的で来校している方々と見た目で見分けできるようにするためのものである。また、同意書を持参し忘れた参加者に対しては、その場でご署名をいただいた。また同意内容の中で、メディアへの取材や写真撮影を NG とされた方に対しては、不同意識別パスを渡し、子どもに着用いただいた。

ボール遊び場提供の受付については、10:30～随時行い、おにごっこ×ボールあそびプログラムと同様、参加同意書にご署名の上、リストバンドを着用していただき、エリアへ誘導した。

メディア受付については、事前のリリース（次節参照）にて取材申込のあったメディアに対して行い、メディア PASS と取材案内をお渡しし、エリアへ案内した。

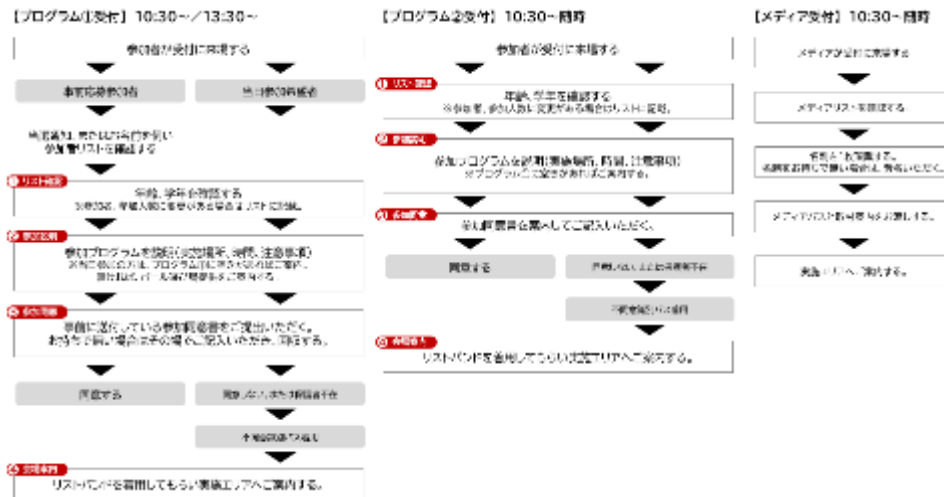


図 10 受付オペレーションフロー

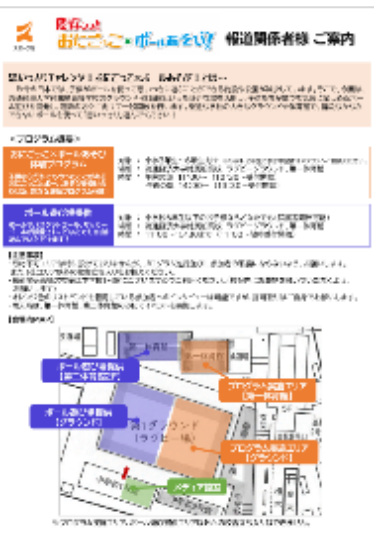


図 11 参加者、関係者、メディア識別

また、受付では来場者に、本事業の趣旨を周知するための「イベント概要のご案内」、効果測定のためのアンケート用紙、学校の PR として流通経済大学付属柏中学校・高等学校紹介冊子、流通経済大学紹介冊子の 4 点を配布した。またメディアに対しては取材案内をお渡した。



(参加者用 表)



(メディア用 表)



(共通 裏)

図12 参加者・メディアに配布した案内

■会場警備計画

学校を開放することにより、実証の参加者ではなく、一般人が校内に入ってくるリスクが発生する。そのため、校門付近の受付には常時スタッフを配置するとともに、図13のように、実証で使用するエリア以外には立ち入り禁止サインを設置し、主催の管轄エリア以外に非学校関係者は立ち入れないようにした。



図13 会場立ち入り禁止エリア

■緊急時対応

災害や事故が生じた際の対応として、学校がある地域の警察・消防・救急・病院の連絡先を取りまるとともに、連絡系統や手順を記載した。またイベントの開催や続行が危ぶまれた際の判断は、スポーツ庁・主催者・実施会場(流经大付属柏高)との協議により決定する旨も記載した。

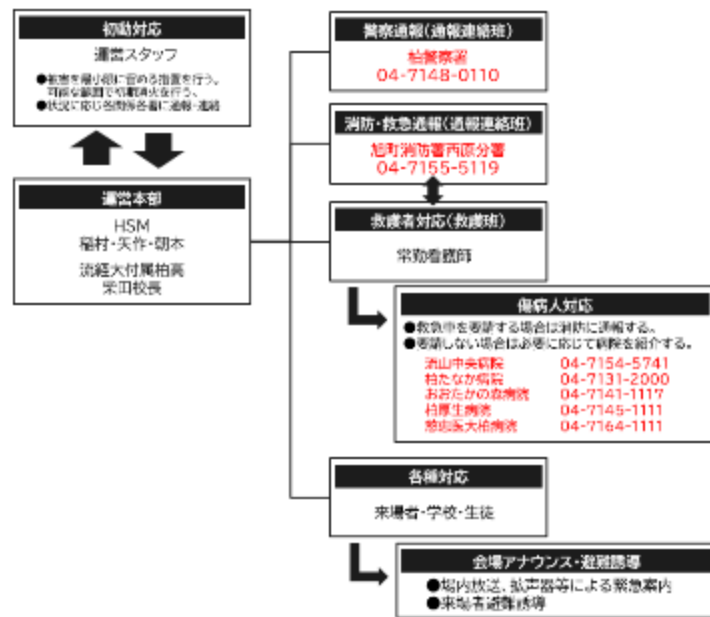


図 14 緊急時対応連絡網

■ 備品リスト

運営に必要な備品を洗い出し、各運営スタッフの備品手配の分担を明確化するために、表 7 のような備品リストを記載した。

表 7 備品リスト

エリア	備品	仕様	数量	手配先	備考
その他	紙コップ	500ml以上	1箱	2階大会場	
	コーヒーマシン	業務用	1台	2階大会場	
	ゴミ箱	50L	1台	2階大会場	
会場内	テーブル	90cm×180cm	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	100脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	50脚	2階大会場	
大会場(観客席)	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	200脚	2階大会場	
	大会場(控室)	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場
椅子		折りたたみ	20脚	2階大会場	
椅子		折りたたみ	20脚	2階大会場	
大会場(控室)	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	
	椅子	折りたたみ	20脚	2階大会場	

(4) 実証の記録

当日は当初のタイムスケジュール通り、滞りなく進めることができた。おにごっこ×ボールあそびプログラムの参加者数は表 8 に各プログラムの内訳を記すが、多くの柏市内に在住する子どもたちが参加し、子ども計 77 名、保護者計 55 名の方々にご来場いただいた。またボール遊び場提供については、正確な立ち入り人数は記録できていないが、プログラムに参加した参加者のほとんどがフリーエ

リアに移動し、ボール遊びを行っていた。受付でのカウントではフリーエリアのみの参加は小学2年生以下で4名いらっしやった。

表8 おにごっこ×ボールあそびプログラム参加者

		参加者人数	保護者人数			参加者人数	保護者人数
午前・ 体育館	小学3年生	8		午後・ 体育館	小学3年生	3	
	小学4年生	2			小学4年生	0	
	小学5年生	2			小学5年生	3	
	小学6年生	4			小学6年生	0	
	2年生以下	5			2年生以下	1	
	合計	21	13		合計	7	6
午前・ グラウンド	小学3年生	10		午後・ グラウンド	小学3年生	6	
	小学4年生	4			小学4年生	9	
	小学5年生	2			小学5年生	0	
	小学6年生	1			小学6年生	1	
	2年生以下	6			2年生以下	6	
	合計	23	14		合計	22	18

<当日の記録写真>

■プログラムの様子





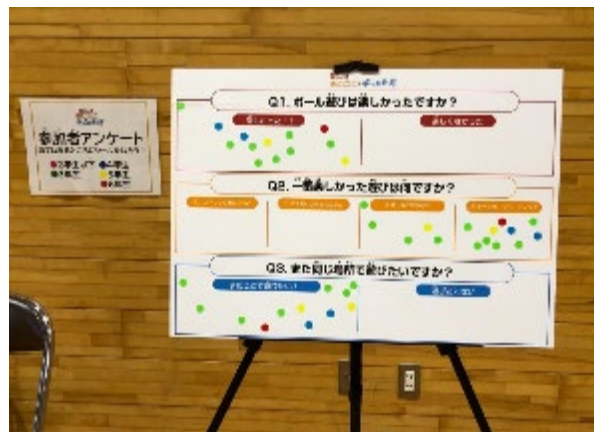
■保護者用テント・受付



■フリースペースの様子



■ アンケートの様子



第1章で述べた期待される成果を図るために実施した参加者および保護者アンケートの結果は、次章でまとめる。

2. 持続性につながるプロモーション展開

本節では、他自治体や学校関係者に本事業趣旨や考え方を横展開させるために行ったプロモーションについてまとめる。

(1) PRの全体設計

第1章でも述べた通り、本事業の目的である持続可能な仕組みづくりとして、本事業が他の自治体や学校が学校開放を実施するためのモデルケースとなれるよう、ただプログラムを実施するだけではなく、本事業の背景にある社会課題、そこに取り組む学校の考えと重要性・親和性、実際に行われたプログラム結果と今後の示唆を、より多くの方々に知ってもらうためのPR記事を配信し、波及を狙う。発信形式としては、課題背景から本事業の設計に至る流れを読者に深く理解してもらうため、連載形式での記事を構築し、事業に込められた意図や思い、参加者の実際の声、今後の展望や持続可能性といった内容を、テーマごとに以下の3つのフェーズに分割して配信を実施した。

①社会課題配信フェーズ：

日本が抱える課題、それに対して本事業に携わる流通経済大学および流通経済大学附属柏中学校・高等学校の取組と「コモンズ」についてを発信

②プログラム構築・実証の実施フェーズ：

通経済大学附属柏高等学校と連携したプログラムの実施とその結果および、参加者からの声と、学校が進むべき今後の方向性についてを発信

③今後の展望：

事業が進むべき道や今後の展望について、スポーツ庁担当者との見解を交えた事業の可能性について探る

また、ストーリーの記事連載は、スポーツ関係のストーリーを社会的な側面から伝えるWebメディア『Azrena』へ掲載を行った。Azrenaは一度配信した記事をストックしておけるという特徴があり、読み物としてストーリー記事をオンライン上に掲載し続けられる点で、事業の持続性に寄与し得ると考えられる。

(2) 各フェーズの記事配信

第1フェーズは、第1章で述べたようなスポーツ庁および国が抱える課題についてまとめると同時に、流通経済大学および流通経済大学附属柏中学校・高等学校が推進する「コモンズ」の考え方が、いかに課題解決に寄与できるか、本学校開放事業を通して、いかに開かれた学校づくりが推進されるか、についての取材を、龍崎氏および附属柏校校長である柴田一浩氏に対して行い、記事にまとめた。

- ・取材実施日：龍崎氏 2023年10月23日（月） 柴田氏 2023年11月6日（月）
- ・記事配信日：2024年2月7日（水）
- ・記事タイトル：『子どもたちに自由な遊び場を！スポーツ庁が進める学校体育施設の有効活用に対する「コモンズ」の可能性とは』
- ・記事URL：<https://azrena.com/post/19783/>

記事にも記載されているが、学校開放事業のように、学校として地域住民も使うことができるという姿勢を示していくことは、ただ子どもたちが通うだけの学校ではなく、「地域の一員」として溶け込んでいくきっかけになる、そのような小さな一歩を積み重ねることで地域に必要とされる学校となり、学校と地域が連携したネットワークが広がっていく、という本事業の本質に迫る意見をいただくことができた。



(3) 開発プログラムのハウトゥー動画制作

本事業で開発した誰もが気軽に遊べる、おにごっこボール遊びを組み合わせたプログラムを、他の学校体育施設開放などに横展開していきよう、開発に協力いただいた小谷氏およびイベントに協力いただいた流通経済大学学生（小谷氏ゼミ生）とともに、遊び方動画を制作した。

動画は以下 URL のように作成し、プログラムのルールをはじめ、遊び方のコツや注意点をまとめたコンテンツとなっている。また解説以外にも、遊んでいる際の雰囲気も伝わるよう、イベントで実際に子どもたちが遊んでいる映像も加えた。さらに、動画に遷移できるリーフレットデータをスポーツ庁 HP 内「地域の身近なスポーツの場としての学校体育施設の有効活用」の委託事業報告ページに掲載をし、本事業モデルを検討する関係者に対して公開する予定である。

ハウトゥー動画：

- ①ハンドリング鬼ごっこ：<https://youtu.be/V276cGzgirK?si=pSFeMWPjLguSf7IK>
 - ②パス追いかけて鬼ごっこ：<https://youtu.be/K-iyxZiBdf4?si=C8ksFTsbx1zoIUZ5>
 - ③ボール氷鬼：<https://youtu.be/qZIJExVX4NE?si=nv9QUhh7MP103p8E>
 - ④チェイサーシューティング：<https://youtu.be/GTwY8pgm91A?si=5zpVPPRyt29rw60F>
- 全プログラム紹介：https://youtu.be/kwj48PR_B-Y?si=5KH-OLGXicUKQL1M

掲載ページ：

(Azrena) <https://azrena.com/post/19938/>

動画例（ハンドリング鬼ごっこ）



第3章 検証結果

本章では、イベント「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」で実施したアンケート、およびWebメディアAzrenaで配信したストーリー記事のメディア効果についてまとめ、本事業の目的に対する達成度について確認する。

1. 「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」アンケート

「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」で行ったアンケートは、第1章で見た社会的背景が実施地域にも存在するか、本事業の目的がどれくらい達成できたかについて検証するものである。具体的には以下を確認する。

- ・地域にボール遊びをできる場が減少しており、子どもたちが気軽にボール遊びができる場の需要がどれくらいあるか
- ・個人単位に対する学校体育施設開放にどれくらいの需要があるか
- ・学校体育施設開放は学校にとってどのようなメリットがあるか

アンケートは保護者、参加者に対して行い、保護者アンケートには、図15のような設問を設定し、イベント当日、保護者にプログラム終了後に記入していただいた。

保護者用

「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」アンケートに記入をお願いします！

本日は、「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」の開催いただきありがとうございます。本イベントの準備や当日の運営、ご意見を伺いいただき、スタッフ一同感謝しております。アンケートにご協力いただき、ご意見を伺い、今後の活動に活かさせていただきます。ご記入いただいた情報は、個人情報が開示されることはありません。

【質問1】 今回のイベントをお楽しみだったと思いますか？ (複数回答可)

1. マッチ 2. 気持よく遊ぶことができた ()

3. 友達・個人からの声かけ 4. その他 ()

【質問2】 イベントでどの活動が楽しかったですか？ (複数回答可)

1. 思いっきりボールを蹴ることができた 2. おにごっこ×ボールあそびの楽しさから

3. 保護者同士の交流ができた 4. イベントの準備や運営が楽しかったから

5. 学校体育施設が開放されたこと 6. その他 ()

【質問3】 ご参加いただいたイベントを継続してほしいと思いますか？ (複数回答可)

1. 本日のイベントと同じ 2. 本日のイベントと同じ 3. 本日のイベントと同じ 4. 本日のイベントと同じ

5. 本日のイベントと同じ 6. その他 ()

【質問4】 ご参加いただいたイベントの満足度を教えてください。 (複数回答可)

	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
おにごっこ×ボールあそび	1	2	3	4	5
ボールあそび	1	2	3	4	5
ボール遊び場	1	2	3	4	5
開放	1	2	3	4	5

※上記を記入した場合は

【質問5】 今回のイベント、ボール遊び場・開放された体育館・グラウンド・体育館を開放されたことについて、ご感想をお願いします。

満足度	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
1	2	3	4	5	

※上記を記入した場合は

【質問6】 今回のイベント、「おにごっこ×ボールあそび！」を開催するために、学校体育施設が開放されたことについて、ご感想をお願いします。

満足度	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
1	2	3	4	5	

※上記を記入した場合は

【質問7】 今回のイベント、「おにごっこ×ボールあそび！」を開催するために、学校体育施設が開放されたことについて、ご感想をお願いします。

満足度	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
1	2	3	4	5	

※上記を記入した場合は

【質問8】 今回のイベント、「おにごっこ×ボールあそび！」を開催するために、学校体育施設が開放されたことについて、ご感想をお願いします。

満足度	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
1	2	3	4	5	

※上記を記入した場合は

【質問9】 今回のイベント、「おにごっこ×ボールあそび！」を開催するために、学校体育施設が開放されたことについて、ご感想をお願いします。

満足度	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
1	2	3	4	5	

※上記を記入した場合は

【質問10】 今回のイベント、「おにごっこ×ボールあそび！」を開催するために、学校体育施設が開放されたことについて、ご感想をお願いします。

満足度	満足ななかった	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
1	2	3	4	5	

※上記を記入した場合は

【質問11】 今回のイベント、「おにごっこ×ボールあそび！」を開催するために、学校体育施設が開放されたことについて、ご感想をお願いします。

【質問12】 性別・年齢・学年ごとの地域を教えてください。

性別	年齢	学年	地域
男	1	1	〇〇市
女	2	2	〇〇市
男	3	3	〇〇市
女	4	4	〇〇市
男	5	5	〇〇市
女	6	6	〇〇市

以上でアンケートは終了です。ご参加ありがとうございました。

図15 保護者アンケート用紙

参加者アンケートは、図16のようなシールアンケートボードを用意し、グラウンド・体育館ともにプログラム終了後に参加した子どもたちに、学年別でシールの色を分けて、ボードに貼っていただいた。

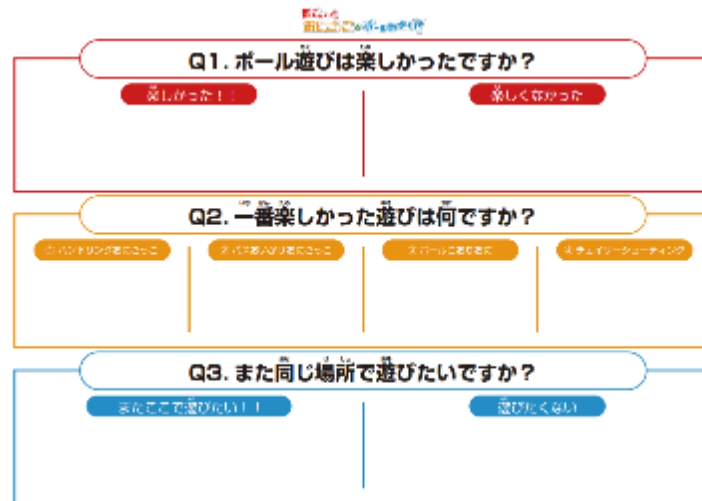


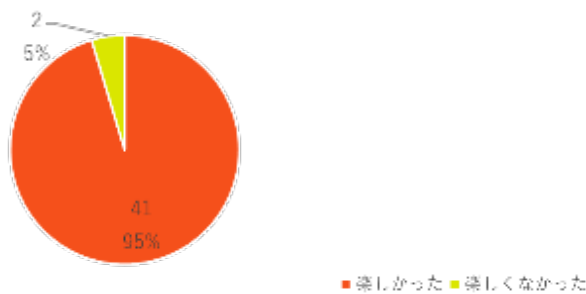
図 16 参加者シールアンケート

(1) 参加者アンケート結果および考察

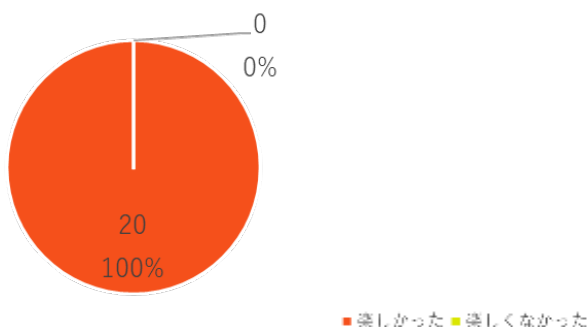
回答者数は、グラウンド 43 名、体育館 20 名の計 63 名であった。

Q1. ボール遊びは楽しかったですか？

グラウンド：「楽しかった」41 名 「楽しくなかった」2 名



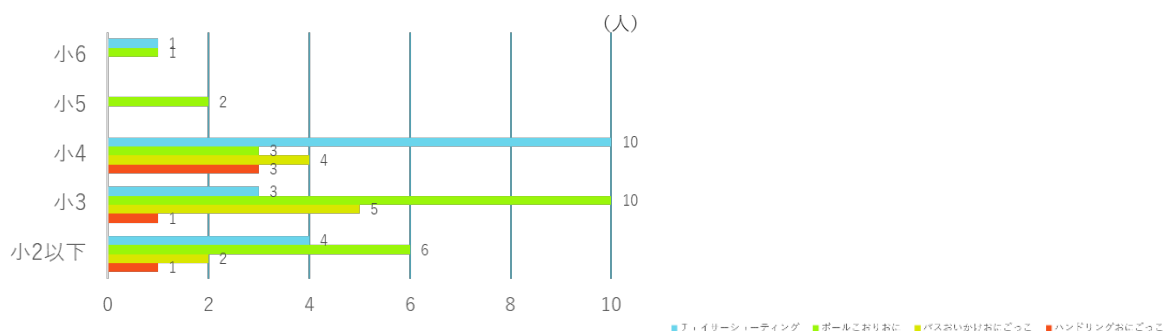
体育館：「楽しかった」20 名 「楽しくなかった」0 名



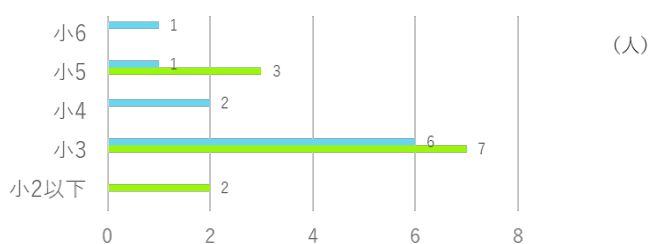
プログラムに対して学年に関わらずほとんどの参加者が「楽しかった」と回答した。新しく開発した「おにごっこ×ボール遊び」プログラムは、運動能力に関わらずほとんどの子どもが楽しめるプログラムであることが分かった。別途保護者アンケートには「ボールが苦手で、おにごっこができると思って参加した」という声があったため、「楽しくなかった」と回答した子どもは、参加目的に沿わなかったためと推察される。

Q2. 一番楽しかった遊びは何ですか？

グラウンド



体育館



最も人気だったプログラムは「ボール氷鬼」(34名)、次いで「チェイサーシューティング」(28名)。低学年の子どもも強度の高いこの2つのプログラムを選んでいて、他プログラムとの違いとして、ボール氷鬼は大人数で遊びながら広いエリアを走り回り、かつ仲間を助けるなどのゲーム性が高い、またチェイサーシューティングはサッカーやバスケットボールの動作をする点があるので、これらの要素がプログラムの評価を高めたと考えられる。低学年の子どもも、達成度に関わらず、プログラム自体の面白さを楽しんでいたと考えられる。ハンドリング鬼ごっこは、ボールサイズが子どもにとっては少し大きく、難易度が高かったように見受けられたので、手や体の大きさに合ったボールでの実施などを今後検討する必要があると考えられる。

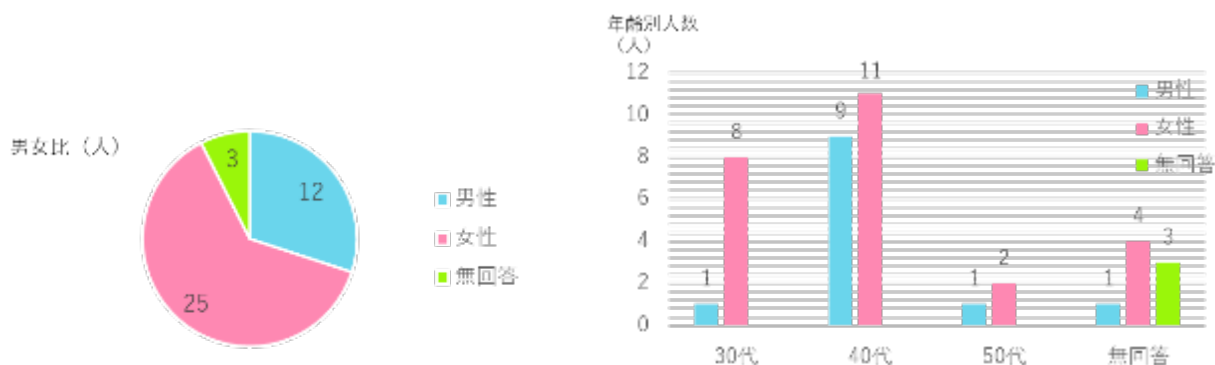
Q3. また同じ場所で遊びたいですか？

グラウンド、体育館ともに回答者全員が「遊びたい」と回答した。普段広い場所で思いっきりボール遊びをできる機会が少ないこと、会場施設が普段の遊び場よりも質が高いこと、プログラムを進行した流経大の先生および学生の指導がよかったことが、要因として考えられ、子どもの会場学校に対する印象は、遊びを通して向上したのではないかと考えられる。

(2) 保護者アンケート結果および考察

回答者数は計40名、男女比、年齢別比は以下表の通りである。

回答保護者男女・年齢比	30代	40代	50代	無回答	計	比率(%)
男性	1	9	1	1	12	30.0
女性	8	11	2	4	25	62.5
無回答				3	3	7.5
計	9	20	3	8	40	
比率(%)	22.5	50.0	7.5	20.0		

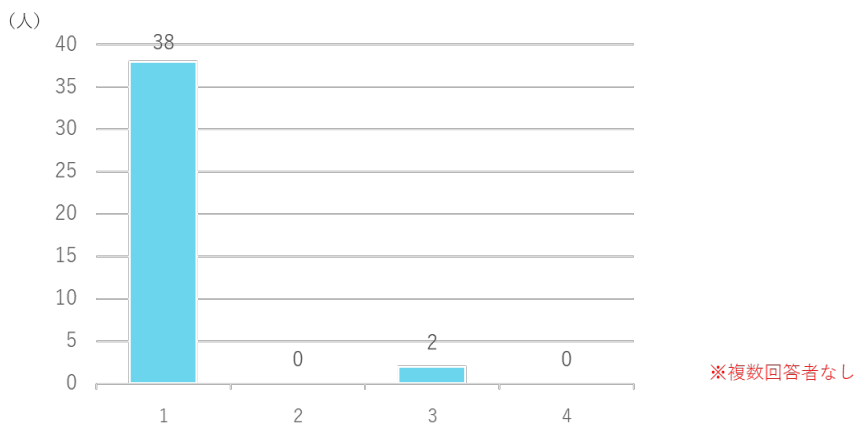


また、居住地は 82.5%が柏市内で、学校が所在する地域住民による回答がほとんどである。

お住まい地域	柏市	柏市以外の千葉県内	千葉県以外	無回答
計	33	3	0	4
比率 (%)	82.5	7.5	0.0	10.0

【質問 1】 今回のイベントを知ったきっかけは何ですか？ (※複数回答可)

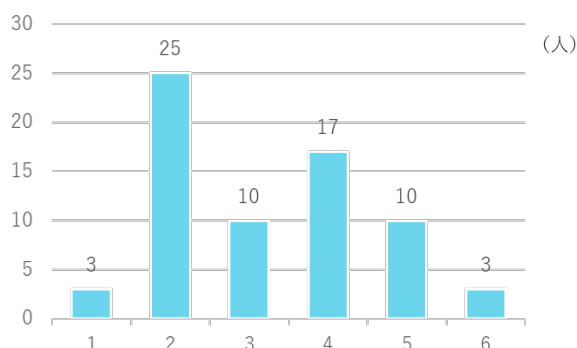
1. チラシ
2. 流通経済大学および流通経済大学附属柏高等学校からの告知
3. 家族・知人からの紹介
4. その他



主催側の告知は、近隣小学校のチラシ配布を実施したため、ほとんどの参加者はチラシを見て、本実証を知って参加に至ると予想されるが、仮説通り、小学校から子どもが持参してきたチラシおよび、学校からメール配信されたチラシデータで本実証を知った人が 95%となり、附属柏の近隣住民をターゲットとしていたので、近隣小学校へのチラシ配布という PR 方法は適切な手段だったと考えられる。事業の横展開という観点で考えると、自治体と連携して近隣小学校にチラシ配布をすれば、需要を感じる一定数の地域住民は会場に足を運んでくれる、ということも実証できた。

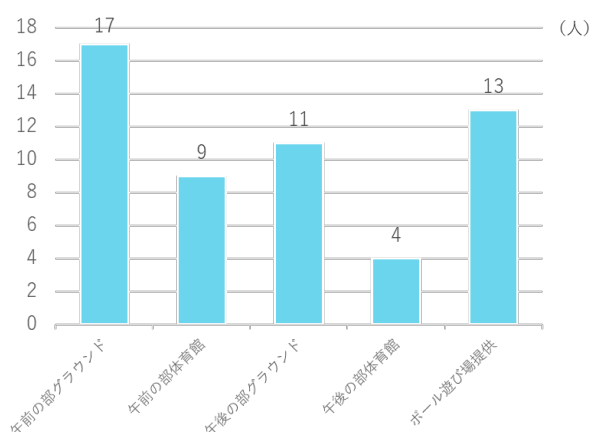
【質問2】 イベントのご来場理由は何ですか？（※複数回答可）

1. 普段身近にボール遊びをする機会が少ないから
2. おにごっこ×ボールあそびに興味を持ったから
3. 流通経済大学附属柏中学校・高等学校に興味を持っていたから
4. 広い場所で子どもを遊ばせることができるから
5. 学生と子どもを遊ばせることができるから
6. その他



最も回答が多かったのは「おにごっこ×ボールあそびに興味を持ったから」であり、「おにごっこ」や「ボールあそび」という単語を見て、プログラム内容に強い興味を持たれたと考えられる。また課題認識としていた「普段身近にボール遊びをする機会が少ないから」の回答は3名にとどまったが、この理由としては、ボール遊び自体は普通の学校の授業や休み時間、クラブ活動ですで行っているケースがある。また遊びが多様化する中で、ボール遊びの機会が少ないことに対してあまり強い問題意識を持っていない可能性も考えられる。また「流経大附属柏に興味を持っていた」も10名。当日の保護者から「流経大附属柏に進学させたい」「地域の中では憧れの学校」といった声が聞かれたため、地域から支持される学校であり、立ち入って校舎や運動施設を見てみたい、という来場動機が一定数あったと考えられる。

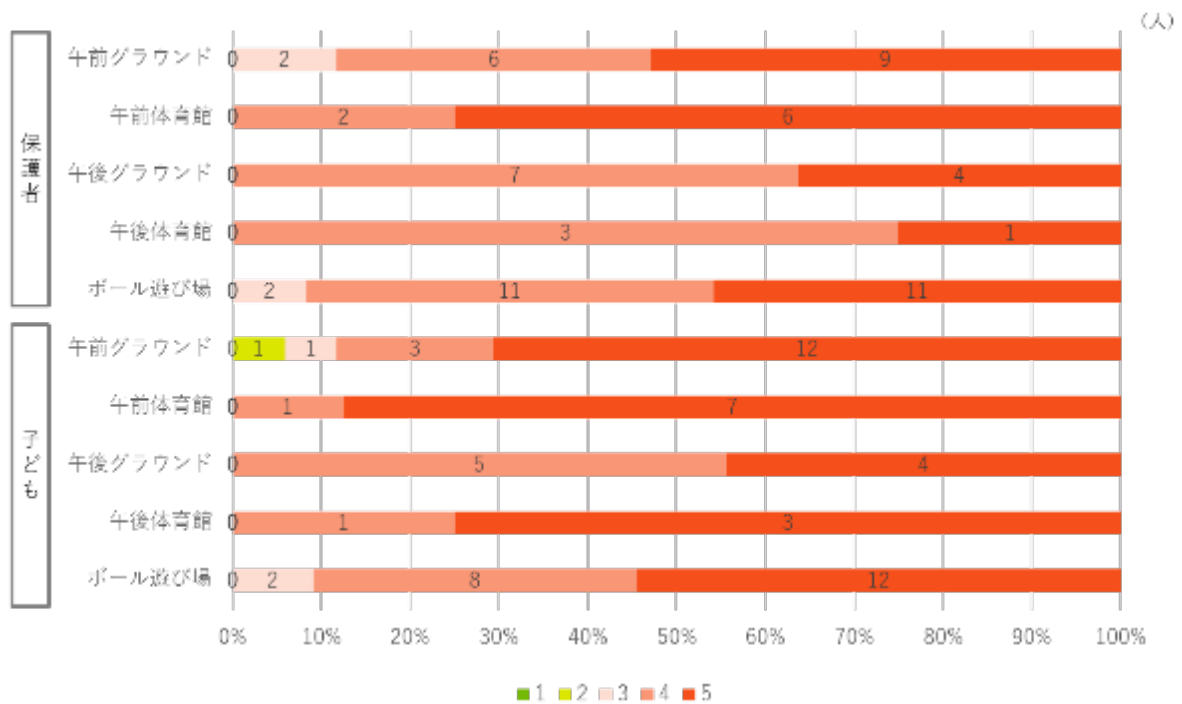
【質問3】 ご参加いただいたイベントを教えてください。（※複数回答可）



午前の方が、午後よりも参加者数が多かったが、理由として午後は昼食時間や気温が下がってくる関係で、午前よりも参加人数が減ったのではないかと考えられる。天気にも左右されるが、冬に実施する場合は、午前の方が集客しやすい可能性がある。また、午前グラウンド・午後体育館と、2連続で参加いただいた親子もいらっしゃったため、プログラムに参加した後に、継続して子どもがもう一度参加したいと思えるプログラム設計になっていたと考えられる。

【質問4】 ご参加いただいたイベントの満足度をご回答ください。 ※保護者が考えるお子様の満足度をご回答ください。

5. 大変満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. 満足できなかった 1. 全然満足できなかった



選択理由を教えてください。

■ 「大変満足」の主な回答

- ・今回のような遊び経験が少なく、場所確保も難しかったため大変満足
- ・人工芝の広いグラウンドが良かった。教員志望の学生の方が見てくれるのも安心できる。流経の校長先生が素敵でした。独自のプログラムも良かった。
- ・子どもたちもまだやりたいという声が聞かれたから
- ・広々としていて子どもも徐々に楽しそうにのびのびと遊んでいたから
- ・人工芝グラウンド、環境が素晴らしい。ボール遊びも夢中になっていた。
- ・お兄さんお姉さんがたがつきっきりで遊んで下さり、なおかつ身体を動かせるすごいい体験ができました

■ 「満足」の主な回答

- ・公園でボール遊びができなくなっているので良い経験ができました。
- ・サッカーゴールが小さかった（子供はシュート練習をしたかったため、少し残念でした）
- ・息子は思い切り鬼ごっこがしたくて、ボールが苦手だったようです

■ 「どちらともいえない」の主な回答

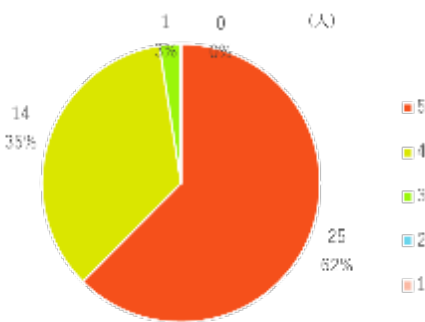
- ・学年もっと平等に

満足度としては、90%以上の保護者および参加者が大変満足、満足と回答し、全体的に、子どもが思いっきりボールで遊べる環境やプログラムが満足度を向上させたと考えられる。またボール遊びができる公園など場所確保が難しいので良い経験ができたという意見があり、広々とした環境で気軽にボールで遊べる場所の提供は、地域にとって非常に重要であることが分かった。また学生が子どもの安全を配慮しながら、プログラムを実施したことも満足度を上げる要因になっていると考えられる。

一部では、満足度は高いが、サッカーのシュート練習をしたかった、おにごっこをしたかったという声も見られたため、おにごっこボールを掛け合わせた新しい遊びを実施する、というプログラム自体の内容を告知チラシに盛り込んでもよかったと考えられる。また、学年による体格や能力差に対する声も見られ、運営として、小学2年生以下も、途中から受入れとしたが、基本的には中学年以上の子どもが遊ぶプログラムということで、予め保護者に説明しておく必要があったように思われる。

【質問5】子どもたちが、ボール遊び等運動・スポーツを自由に思いっきり行う場として、学校体育施設を開放することは重要だと思いますか？

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. とてもそう思う

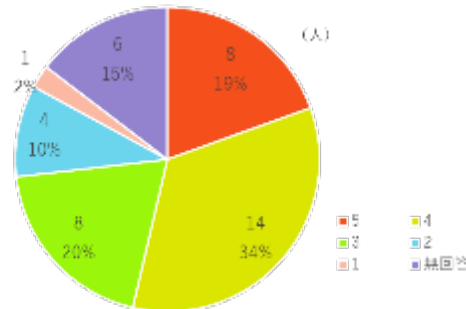


【選択理由】

- 「とてもそう思う」「そう思う」
 - ・公園ではボール遊びできなかつたりするので開放していただけるとありがたいです
 - ・ボールを使用できる場所が少ないから、近くの学校を見られるのも良い。
 - ・コロナ以降運動不足、外遊び不足が進んでいるから
 - ・これだけ広い環境で遊べる場が身近にないので、学校施設が利用できるのは、安全でありがたいことです
 - ・学校が空いている時は地域に開放して、子どもたちを遊ばせてほしい。
 - ・ボール遊びができる場所が少ないため。バスケットゴールが無い。
 - ・広い場所を提供してくれると、広々動けるから、道具も準備してくれ、助かります。
 - ・来年から部活が廃止になるので、本格的な運動体験は貴重です。異年齢交流もよいと思います。芝生も運動しやすい。
 - ・家の周りにそのような場所がないからです
 - ・子供たちが自由に思いっきり運動できる場所がほとんどないため

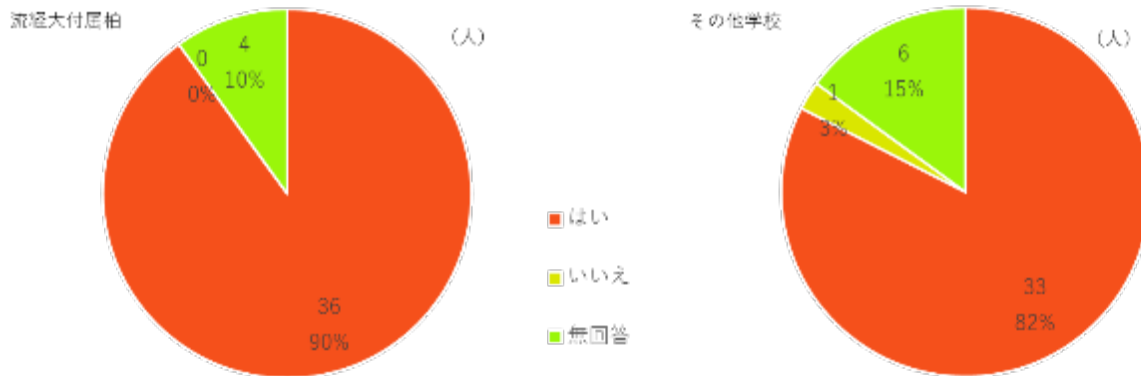
97%の保護者が学校体育施設開放を重要だと考えている結果を得られ、身近にボール遊びができる場所が少ないので、学校が開いているときには地域に開放し、有効に活用していくことが求められていることが分かった。また、コロナ以降で運動不足が続いているという意見も聞かれ、コロナ渦も、子どもの外遊び習慣を低下させる要因になっており、自主的に外で遊びたいと思える遊びを子どもに知ってもらうことも重要であると考えられる。また、地域の学校の中を見学することもメリットに捉えられており、学校開放は、子どもの外遊び・ボール遊び機会創出に寄与するだけでなく、結果的に学校の認知・イメージ向上につながったりなど、地域住民に対するプレゼンス向上を図れると考えられる。

【質問6】（質問5で「4・5」を回答した方）学校開放において、団体利用が多いかと思いますが、個人利用のニーズはどの程度ありますか？ （ニーズ低 1～5 ニーズ高）



53%の保護者が、ニーズが高いと感じている（「4, 5」を選択）結果が得られ、個人でも学校のような安全で整備された場所で遊べる環境に、需要があることがわかった。また一方で、どちらでもない、ニーズをそこまで感じない保護者も 32%を占めたが、理由としては、個人単位では、場所や設備があってもどう遊べばよいかわからない場合もあるのではないかと考えられ、開放時に今回のような何かしらのプログラムを実施すると、個人単位でも利用しやすくなると推察される。

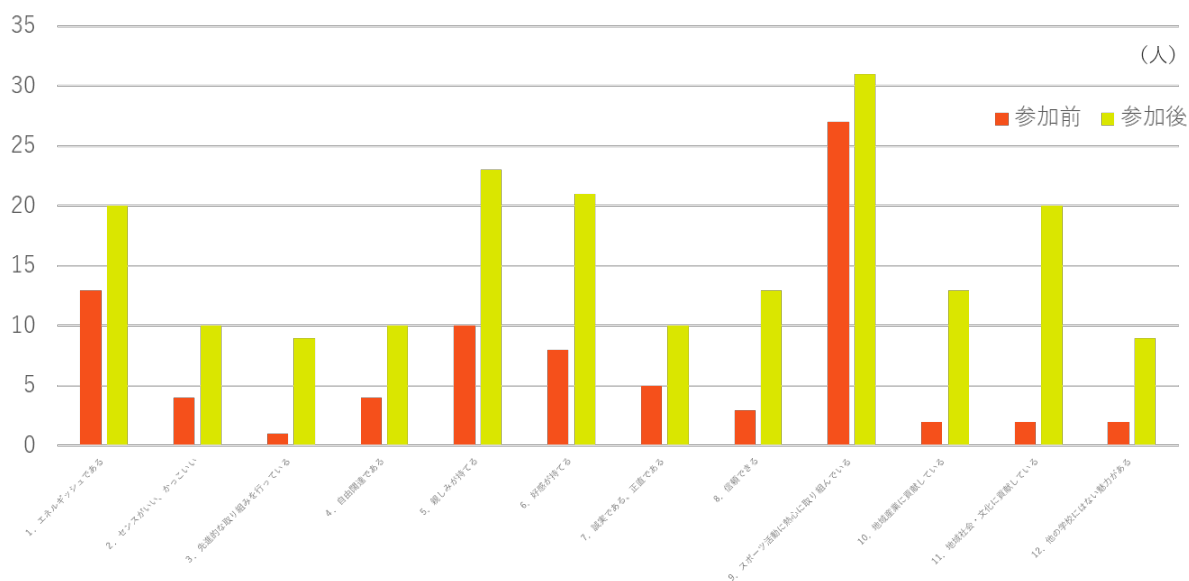
【質問7】 今後も、本学校開放イベントがあれば参加したいと思いますか？（流経大付属柏・その他学校それぞれで回答）



流経大付属柏では90%、その他学校では82%の保護者が、また参加したいと回答した。

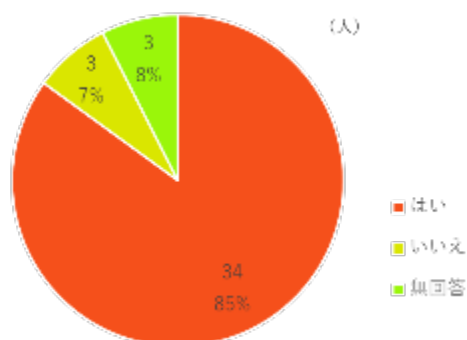
その他学校では「いいえ」と回答している保護者が1名いたが、その他学校（地域外にあたりあまり馴染みのない学校）に対しては、開放のニーズを感じない方もいるので、アクセスのしやすさや地域での認知度が、主な来場動機として考えられる。

【質問 9】 本イベントに参加する前後の、流通経済大学付属柏中学校・高等学校の印象について教えてください（※複数回答可）



参加前後で比較すると、「地域社会・文化に貢献している」が最も多い18人増。次いで「親しみが持てる」「好感が持てる」が13人増となった。地域貢献している印象を与えたということは、地域住民のニーズに応えられている証拠である。また、会場学校に対する好感度や親密度も向上させることができた。同様の取組をしている学校はまだ少なく、「先進的な取り組みを行っている」という印象も実施後に増加したのではないかと考えられる。

【質問 10】 本イベントを通して、本イベント等を開催しているような学校にお子様を通わせたいと感じましたか？



85%の保護者が「通わせたい」と回答し、学校開放事業は、学校への信頼度を高め、学校の進学率向上に寄与できることが分かる。

【質問 11】 その他ご要望や、イベント全体の感想をご記入ください。（※自由記述）

<感想>

- ・学生さんと関わって、高校を見れるのはとても良いです
- ・なかなかボールを使った遊びを通じて他のスポーツに繋がるようなことが無いので、楽しく参加できて良かった。

- ・近所に居住しており、学生さんが近所の神社を清掃してくれたりと、親しみを感じて応援しておりました。今回このように気軽に遊ぶ活動を通して、学内の様子や親しみやすい先生方の姿に接することができ、更に御校への関心が高まりました。
- ・おにごっこ、ボール遊びにもバリエーションがあり、1時間があつという間でした。子どもも大変楽しそうでした。
- ・あまり体を動かす機会を作れないので、参加できて良かったです
- ・体育の授業のような雰囲気でしたが、内容がとても濃く、おもしろかったです
- ・迷うことなくイベントに参加できて安心しました。また子供たちも来たいと言っていました。
- ・今日初めてあったお友達や先生方と、子供が楽しくのびのびと運動している姿が印象的でした。楽しい時間をありがとうございました。

<要望>

- ・お金を払ってもいいので、英語の習い事やサッカー、ラグビーの習い事があればいいなと思った。
- ・大人が体を動かす機会があれば参加したい
- ・学校・学生の雰囲気も知れ、のびのびと遊べて大変満足だった。月1回、シーズンに1回など、定期的に開催してもらえるとありがたい。
- ・もう少し幼児が過ごす場所があればよかった
- ・保護者もゲームに参加できると良い
- ・ラグビーの企画希望
- ・イベントが単発でなく、定期的に行われるとありがたい

2. 各配信コンテンツのインサイト

「思いっきりチャレンジ！おにごっこ×ボールあそび！」実施告知については、大学プレスセンターでの配信の効果により、下記メディア5社に転載された。

- ・AGARA 紀伊民報
- ・Dorm
- ・AFPBB News
- ・Digital PR Platform
- ・沖縄タイムス

また第1弾配信記事については、2024年2月13日時点で以下のインサイトを得られている。

- ・PV数：101
- ・アクティブユーザー数 48
- ・平均エンゲージメント時間：2分16秒

平均エンゲージメント時間については、Azrenaの他記事と比較し、長時間を記録している。また本記事は毎日新聞（オンライン）、スポーツブルにも転載されている。

- ・毎日新聞：<https://mainichi.jp/articles/20240207/azn/00m/050/000000c>
- ・スポーツブル：<https://azrena.com/post/19783/>

また第2弾配信記事については、2024年2月28日時点で以下のインサイトを得られている。

- PV数：32
- アクティブユーザー数：21
- 平均エンゲージメント時間：43秒

本記事はスポーツブル、ライブドアニュースに転載されている。

- スポーツブル：<https://sportsbull.jp/p/1746684/>
- ライブドアニュース：<https://news.livedoor.com/topics/detail/25916487/>

また第3弾記事については、2024年2月29日時点で以下のインサイトを得られている。

- PV数：42
- ユーザー数：21
- 平均エンゲージメント時間：59秒

本記事はスポーツブルに転載されている。

- スポーツブル：<https://sportsbull.jp/p/1752700/>

第4章 総括

1. 今年度の成果について

ここまでの内容を踏まえ、本事業を通して、①地域に開かれた学校づくりの一環として、個人に向けた校庭の開放による新たなモデル事例の創出 ②「遊び」という概念で、気軽に参加することができるコンテンツやプログラムの創出 の2点を実施することができたと考えられる。

本事業の成果として、以下の定性的・定量的な効果を検証する。

【定性的な効果】

指標	成果
学校開放活動への興味関心向上	保護者アンケートから、継続実施の希望や、学校開放に対する需要の声を確認でき、学校開放活動への興味関心が高いことがわかった。
ボール遊びへの興味関心向上	子ども・保護者アンケート双方でのプログラム内容に対する高評価や、また遊びたいという声を確認でき、ボール遊びに対するニーズが高いことがわかった。
学校への愛着度向上	保護者アンケートから、実証参加前後で学校に対して「親しみが持てる」「好感が持てる」の印象を持つ保護者が多かったこと、そして、子どもからもまた同じ場所で遊びたい、という声を確認でき、学校体育施設の活用による学校への愛着度向上を明らかにすることができた。

【定量的な効果】

指標	成果
「地域に開かれた学校づくりで学校/行政/個人（地域）の課題を解決する考え方」の認知度向上	ストーリー記事配信で総計、PV 数 175、アクティブユーザー数 90 獲得し、スポーツ Web メディア SportsBull や全国 Web メディア（ライブドアニュース、毎日新聞）に転載され、地域に開かれた学校づくりによる社会課題の解決に対する考え方を普及することができた。
学校地域の子どもの運動実施率の変動率	本実証に多くの子どもに参加していただいたが、運動実施率の継続的な推移の確認には、定期的の実証実施やアンケート調査を行う必要がある。

具体的な成果として、以下のとおり整理する。

①地域に開かれた学校づくりの一環として、個人に向けた校庭の開放による新たなモデル事例の創出

流通経済大学附属柏高等学校と連携した事業により、地域に住む個人に向けた新たなトライアル事業を実現でき、保護者アンケートからも、ボール遊びができる場所が減少していることに対して課題感を感じていること、地域住民が、個人に向けたこのような学校開放を希望していることを改めて再認識できた。これは第1章で述べた第一の目的に沿う成果であり、スポーツ庁や国が抱える課題解決に寄与する可能性ある示唆を得られたと考えられる。

②「遊び」という概念で、気軽に参加することができるコンテンツやプログラムの創出

最も行われている遊びである「鬼ごっこ」とボール遊びを掛け合わせた、ボールと場所さえあれば誰もが取り組むことができるオリジナルプログラムを開発でき、参加者アンケートからも、プログラム自体への満足度が高いものとなった。また、How To 動画の制作により、誰もが気軽にトライできる環境創出にも寄与できた。

さらに持続可能な仕組みづくりという観点では、③事業の背景、学校が取り組む意義とその想い、実証結果と考察を PR 記事で WEB 発信を実施できた。具体的には、日本が抱える「ボール遊び場が少ない」「個人が遊べる場所提供が少ない」という課題に対して、スポーツ庁の実施意図、協力した流通経済大学・流通経済大学附属柏高等学校が掲げる学校経営の在り方とその可能性を、WEB 記事という形で発信し、スポーツ関係者への発信を中心に、多くの方々に対して本事業を「認知」してもらうための基盤を形成できたと考えられる。また、実証実施告知が複数媒体に転載された点も、本事業の実施背景を含めた形でリリースをしたので、実証を実施したという事実だけでなく、本事業全体の趣旨を広く発信できたと考えられる。

2. 今後について

今後の課題と展望として、以下3点が考えられ、今後当社としても、スポーツ庁や様々な自治体や学校と連携しながら検討していきたいと考える。

①本モデルケースの更なる展開・波及

前提として、本事業は特定の条件下にある学校しかできないものではなく、ボールと場所さえあれば誰もが実施・参加できることを目的とした実証実験である。そのため今回のモデルケースを起点として、より多くの学校へ拡大波及していくことが求められる。特に、ボール遊び場の減少という部分にフォーカスすると、「都心部」にて問題になっているケースが多いものと思われるため、本事業を都心部にて実証することにより、より多くの個人が学校施設の恩恵を受けられるような仕組みを検討していきたいと考える。

②本学校開放事業が「学校経営」に及ぼす効果の整理・検討

今回のモデルケースにて、参加者はイベントを実施した学校に対して、参加前後でプラスの印象を持つ結果をもたらした。少子化が問題となっている昨今の日本社会において、このような事業を行うこと自体が他校との差別化、学生の確保につながる可能性があると考えられる。これを踏まえ、改めて開放事業を行う学校に対して、どのようなプラスの印象を与えられるのか？それが学校経営にとってどのようにプラスになるのか？を整理・抽出し、より多くの学校が本事業を実証するメリットを感じられるような基盤を検討していきたいと考える。

③学生と連携したイベント実施方法の模索

本事業は、流通経済大学の学生に協力をいただきながら事業を実施した。その結果、参加した学生にとっても「成長の機会となった」「貴重な経験となった」といった声があった。運用面で、イベントを誰が行うのか？は本事業において大きな課題であるが、本事業を「学生の成長の機会」と捉え、開催学校の学生を巻きこんだ運営スタイルとすることで、個人・学生・学校にとってもそれぞれにメリットがある座組を構築できるものと思われる。今後の拡張として、運営面や安全面にも配慮した方法を模索することで、実施ハードルをさらに下げてくことが課題だと考えられる。

参考文献

龍崎孝（2022）『「コモンズ」としての大学と新しい地域連携』，流通経済大学学術情報リポトリジ.

小谷究，加賀屋圭子（2019）『バスケットボールを楽しく学ぶ ファンドリル』，ベースボール・マガジン社.

令和5年度スポーツ庁委託事業
誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業
(学校体育施設の有効活用推進事業)

報告書

令和6年2月

スポーツ庁

(委託先：株式会社博報堂DYスポーツマーケティング)